令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　沼　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

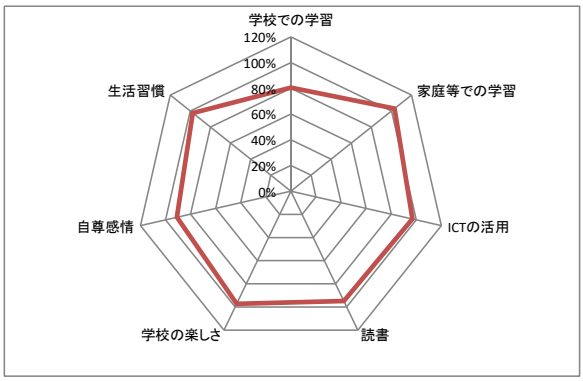
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は低く、積極的に問題に取り組む姿勢が見られる。 ・文章を読んで、登場人物の心情を捉えたり、自分の考えを記述したりする問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」「言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」「漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書く」	
	努力が必要な問題	「登場人物の相互関係について，描写を基に捉える」「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」	

算数	全体的な傾向や特徴など	・答えをどうやって求めるか、その説明を記述する問題が正答率が低かった。また「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ」というプログラミング的思考を使う新しい傾向の問題の正答率も低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「二つの数の最小公倍数を求めることができる」「百分率で表された割合を分数で表すことができる」	
	努力が必要な問題	「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述できる」 「分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」	

理科	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は低く、積極的に問題に取り組む姿勢が見られる。 ・実験の結果を分析し、なぜそのようになるか理由を記述する問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「問題を解決するために必要な観察の視点を基に，問題を解決するまでの道筋を構想し，自分の考えをもつことができる」	
	努力が必要な問題	「実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できる」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学校が楽しい」「友達と協力するのは楽しい」と感じている児童の割合が全国平均を上回っている。また、人の役に立ちたいと考えている児童の割合がほぼ100%である。しかし自尊感情が低い傾向にある。 ・主体的に授業に関わることや、話合い活動を十分にできていないと感じている児童が多い状況である。授業でICT機器を活用することには、とても肯定的に捉えている。 ・朝食を欠かさず食べたり、毎日同じ時間に就寝したりする習慣が身に付いている。スマートフォン等でSNSや動画視聴を1日1時間以上している児童が半分以上いるため、適切な使用について啓発していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・記述形式の問題を解く力を高めるために、国語科以外でも自分の考えを書く活動を広く取り入れるようにする。さらに問題の内容を的確に読み取ることができるように、6つのリーディングスキル（係り受け・照応・同義分判定・推論・イメージ同定・具体例同定）に着目した練習問題を朝学習等で実施し、読解力を高めていく。その際、タブレット等のICT機器を活用し児童の学習意欲を高めるようにするとともに、授業にプログラミングを積極的に取り入れ、プログラミング的思考を育ませる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「学校が楽しい」という肯定的な気持ちを基礎として、自尊感情を高めるために、「北九州子どもつながりプログラム」などを活用した教育活動を推進していく。またスマートフォン等によるSNSや動画視聴の適切な使用について、道徳、特別活動等の中で取り上げていくとともに、家庭とも連携を取り合い協力して啓発に取り組んでいく。